

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290900034		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームつがる		
所在地	青森県つがる市木造吹原西前田21-18		
自己評価作成日	平成27年7月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、自宅に居るのと同じような安心感のある、また、その人らしい生活ができるよう、全職員が協力し、温かい心で支援していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地内にきれいに整備された花畑等があり、居室からの眺めも良く、落ち着いた環境で過ごせるように工夫している。 同法人のデイサービスや地域の住宅と隣接していることから、地域との交流を継続しながら生活できる立地条件であり、利用者が自宅に居る時と同じように、地域とのつながりを感じながら、安心して生活できる環境である。 また、ホーム内も落ち着いた雰囲気、職員は理念を常に意識し、利用者に寄り添いながら、その人らしく生活できるように、日々、取り組んでる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前は、事業所の理念を読み上げて気持ちを切り替えています。職員が協力し合って、理念に沿ったケアができるように努めています。	利用者個人を尊重し、地域住民の一員として生きていけるような支援に努めることを掲げた、9項目からなる独自の理念を作成している。また、就業前に理念を読み上げる等、職員間で周知及び共有化を図っており、理念を読み上げることで職員の気持ちの切り替えや、日々のサービス提供時の動機付けとなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の美容室を利用したり、夏祭りに参加する等して、地域の方々との交流を図っています。付近を通った方々とも挨拶をする等、気軽に声がけしていただけるようにしています。	訪問等は少ないものの、地域に出向いてお祭りに参加している他、近隣住民から差し入れをいただいたり、散歩時に挨拶を交わす等、日常的に地域との交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーの問題もあり、ボランティアの受け入れ等までには至っていませんが、運営推進会議の際に、自治会長や老人クラブ会長、民生委員等に対して、グループホームの説明をする等、事業所の役割を通して社会貢献をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域を代表したメンバーの方々に参加していただき、利用者様の過ごし方やヒヤリハット事例等を報告しています。また、有識者代表として、他事業所を運営している方にも参加していただき、意見交換をしています。会議の内容は職員にも報告し、業務に活かすようにしています。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、次回の予定日を確認することで参加の促しにつながっている。また、会議ではサービス評価の報告や活動状況について説明し、参加者から意見を引き出す工夫をしながら、日々のケアに反映させるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所介護課職員にも参加していただき、その時に出た意見やアドバイスを参考に、取り入れられる物は取り入れるようにしながら、協力関係を築けるように取り組んでいます。	市役所の担当課職員が運営推進会議の委員になっていることから、定期的に意見を交換する機会がある他、サービス評価の報告を行っている。また、必要に応じて、代表者等が行政と連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏状態の利用者様が落ち着かず、外へ出て行こうとする際、職員の目が届かない場合は、やむを得ず玄関に施錠することもあります。なるべく職員が協力して声をかけながら見守り、施錠することがないように取り組んでいます。	日中は玄関を施錠することなく、出入り口にセンサーを取り付け、利用者の不穏な状態にも対応できるように工夫している他、外出傾向を察知した場合には職員が付き添う等の支援をしている。また、月1回の勉強会等で身体拘束の内容や弊害について、職員が共通認識を持てるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、「虐待は絶対にしない」という認識をもって業務し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等を利用している利用者様はいませんが、今後、勉強会等を通して詳しく学んでいきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書等を通してグループホームの説明をし、質問等がないか確認しています。質問があった場合はその都度、説明しています。退所時の内容についても、契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は、早目にお知らせし、変更前に再度、説明する等しながら、理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、電話や手紙で利用者様の近況をご家族様に報告し、ご意見やご要望がないか確認しています。また、何かありましたらいつでもご連絡を下さるようお願いし、ご意見等があった場合は、その都度、職員に伝え、統一したケアを行うことができるように心がけています。	面会時や定期的な手紙等において、家族等から意見を聞くように取り組んでいる他、うまく言えない利用者については観察を密に行い、他の職員と意見交換をしながら、日々の業務に反映させている。また、運営推進会議の委員に利用者本人及び家族も構成されており、外部に意見を言える機会が確保されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心がけ、勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を随時設けています。利用者様と良い関係が築けている職員は、その関係を大事にしてケアに取り組んでもらっています。	毎月の会議等において利用者の状況を報告し、職員の意見も聞きながら、出された意見は日頃のケアに反映させている。また、職員と利用者が馴染みの関係を築けるように、管理者等は職員の話をよく聞き、配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から適時報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行い、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境を作れるように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境を作れるように心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの経営者に運営推進会議に参加してもらい、意見を取り入れながら、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時に、思いを引き出せるような聞き方をしたり、また、利用者様同士の会話からも思いを探り取りながら、その思いに応えられるように努めています。安心して生活できる場にするための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時には、ご家族様の気持ちにも同調し、信頼関係が築けるよう、意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿えるようなプランを立てて実践しています。困難な時は職員からの意見も参考にし、対策を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむ等、利用者様ができる事は協力し合いながら行っています。また、裁縫が得意な利用者様には、得意な事を行ってもらう等、存在感を感じてもらえるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細な事でも報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者様を支えられるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、居室でゆっくりと過ごしていただけるようにしています。また、普段の会話で、利用者様が行きたいと話していた場所等がある場合は、ご家族様にも相談し、協力をお願いしています。	家族の面会時等を利用して馴染みの場所を把握している他、電話や手紙等の交流をしている利用者は少ないものの、必要に応じて支援をしている。また、利用者の希望に応じて外出する場合には、家族から協力を得られるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者様全員がホール内で過ごしているので、姿が見えないと心配する声は聞かれませんが、気を使わず過ごしているせいか、たまに口喧嘩をすることもあり、声がけしてなだめる等しながら、お互いに支え合えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため、退所に至ったケースもありますが、「何かあったらいつでも相談して下さい」と伝える等、相談や支援の継続に努めています。また、入院中も、入院先の病院に利用者様の普段の様子を伝える等、状況に合った支援の継続をお願いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話から思いを汲み取り、ご家族様にも報告・相談をして、本人が望まれる生活ができるように支援しています。	日頃のケアの中の会話や利用者の表情及びしぐさ等から、思いや意向を把握している。また、利用者が意向を十分に伝えられない場合には、複数の職員の情報を参考に、利用者の視点に立って意向等を把握するように努めると共に、家族からも情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者様やご家族様、関係者等から聞き取りをし、情報収集を行っています。入所後もご家族様にホームでの様子を報告しながら、「自宅でもそうでした」等、新たな情報が得られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護から気づいた事や思った事について申し送りを行い、話し合いをしながら、利用者様の心身の状態を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様が面会にいらした時に、現在の状況を伝え、ご家族様からも利用者様の様子を伺い、職員も合わせて今後の事について話し合い、現状に合わせた介護計画を作成しています。	利用者の意見や家族からの気づきも反映させると共に、職員から集めた情報やアセスメントシートを活用し、話し合いの下、個別具体的な介護計画を作成している。また、実施期間に関わらず、変化があれば、随時計画を見直す取り組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかるように詳しく記録し、思った事や感じた事も記録しています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、既存のサービスにとらわれないよう、柔軟な支援を行っています。ホーム内でのサービスだけでなく、他の機関のサービスも参考にしながら取り組みたいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、地域と関係機関に情報の提供と協力をお願いしています。私達も地域にどのようなサービスがあるのか調べ、今後、外部の方ともお付き合いできればと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は利用者様やご家族様の意向で、自宅に居た時と同じ病院に通い、連携が図れています。その他、受診が必要な場合は、ご家族様にも相談しながら病院を決め、受診結果を報告しています。	利用者の受療状況を利用開始時の聞き取りで把握し、希望が無い限りはこれまでの医療機関を受診できるように支援している。また、ホームが通院の支援をしており、月1回の便りや電話連絡にて情報の共有を図る他、必要に応じて家族へも依頼している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先の病院に情報提供を行い、ご家族様も交えた治療方針の話し合いの場にも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、利用者様の状態が重症化した場合、状況によっては、ホームでの暮らしの継続が困難である場合もあることを伝えていきます。ホームでの生活が困難と判断された場合は、次の受け入れ先の確保と、入所できるまでの支援を継続することを説明しています。	利用開始時に、終末期の対応は行っていないことを予め説明して承諾を得ており、対応が困難になった場合には、他の施設への移動等について十分に相談にのるという取り組みがある。また、急変時の対応等、家族や医療機関と話し合い、意思の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常の介護現場で、事故の時にケアの仕方を伝えています。また、実務や勉強会、マニュアル等を通して、実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員を交えて、年2回の避難訓練を行っています。避難訓練後は、職員が消火器を使った消火訓練も行っています。	年2回の避難訓練は消防署及び老人クラブ会長、地域住民の協力も得て、利用者と職員が一緒になり、夜間も想定して実施されている。また、いざという時のために、3日分程度の缶詰や飲料水の備蓄の他、防寒具として、布団や毛布等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩であるという意識を常に持って、接するようにしています。言葉遣いに注意し、プライバシーに配慮した対応を心がけています。	個人を大切にするという理念の下、利用者の言動を否定したり、拒否することなく、本人の意向を尊重するように寄り添いながら業務を行っている。また、声がけ等で気になるところがあれば、その都度、職員間で改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問する際は、利用者様の思いを表せるような声がけをしています。言い表わせない利用者様は、表情等を見ながら判断し、その後も観察して、判断に間違いがなかったか確認しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望に沿うような支援を心がけていますが、難しいと思われた場合は、早目に説明し、それに代わる提案をしています。なるべく希望に近づけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は一緒に服を見立てています。髪をとかし、鏡を見る回数が増えて、明るい気持ちで過ごせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いたり、おしぼりの準備をしてもらっています。食事中はその日のメニューから会話の幅が広がり、楽しく食事ができています。	季節感を感じられるように工夫しながら、職員が献立を作成しており、苦手な物には代替品を使う等の配慮をしている。また、献立の内容を説明し、利用者が食事に関心を持てるように取り組んでいる他、食事中は適度に会話をしながら、利用者が食事を楽しめるよう、さりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを毎回行い、摂取量が少なく、気になる場合は病院を受診して、医師に報告・相談しながら、指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる利用者様は、食後のうがい、義歯洗浄を行っています。自力でできない利用者様や、磨き残しがある利用者様は、職員が洗い、口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知所の進行や病的なことから、失禁が増えている利用者様もいますが、失禁があっても排泄パターンに合わせて声がけ・誘導し、トイレでの排泄を維持できるように支援しています。	排泄パターンを個々に記録して事前誘導を行い、自立に向けた取り組みを行っている。オムツ等を利用している場合は、継続が必要か複数の職員で観察し、情報の共有化を図ると共に、小声で声がけする等、周囲への配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操をし、水分も多めに摂り、便秘を予防しています。それでもなかなか排便できない時は、頓服で処方されている下剤を服用し、受診時、医師に報告しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週4回あり、希望がなければ、週2回入浴できるように調整しています。拒否される利用者様にも工夫しながら声掛けすることで、定期的に入浴することができ、清潔に過ごすことができています。	利用者の意向をできるだけ取り入れ、入浴習慣等に配慮し、週2回は入浴できるように実施している。また、拒否がある場合は、他の日に振り替えることもできるように取り組んでいる。入浴時は利用者一人に対し、職員一人での介助を行い、羞恥心に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様は起床時からホールへ出てきて過ごしていますが、昼食後は体調も考え、少し横になってもらっています。夜間に休まれる時間帯も一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、職員間で申し送りを行い、利用者様の様子に変化がないか観察しています。服薬についても、飲み忘れや飲み間違いがないか、職員二人で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでくれる利用者様や、運動がてら、無理なく、手の届く範囲で手すり等を拭き掃除してくれる利用者様、裁縫が得意な利用者様にはほつれた場所を縫ってもらったり、料理が得意な利用者様にはおやつを一緒に作ってもらったりし、役割や楽しみ等を等が得られるよう、その人の生活歴等に合わせた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、急な外出はありませんが、なるべく希望に沿うように、ご家族様の協力も得ながら支援しています。そのため、普段から利用者様の様子をご家族様に報告し、信頼関係が得られるように努めています。また、ドライブ等の外出計画は、利用者様の希望を聞いて計画を立てています。	日常的にホーム周辺を散歩している他、外出計画を作成する際は利用者が行きたい場所を把握するように努め、希望を取り入れている。また、身体状況に合わせた車両の使用や、必要に応じて家族の協力も得られるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持っている利用者様はいますが、ほとんどの利用者様は、ご家族様の意向もあり持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くに離れて住んでいますが、ご家族様からはがきや小包が送られてきます。電話は「会話にならないので要らない。」と言われるご家族様もいらっしゃいますが、電話をすると利用者様の声を聞くことができるため、安心されているのではないかと思います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は、その時の季節を感じられるように飾り付けをしています。また、利用者様の普段の様子を写したスナップ写真を掲示し、ご家族様が面会に来られた際に、喜んで見えています。ホール内に温・湿度計を置いて、風通しを良くし、快適な空間となるように工夫しています。	天窓の明るさと照明を組み合わせることで、ホールは適度な明るさが保たれており、ホールの一角にはソファがあり、利用者が会話を楽しみながら過ごせるように工夫されている。また、ホール内の飾り付けも季節感を感じられるように工夫を凝らしている他、手作りカレンダー等もあり、落ち着いた雰囲気になるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があり、ほとんどソファ席で過ごしている利用者様が多いです。席は決まっていないので、動ける利用者様は自由に移動しています。介助が必要な利用者様は、希望する場所に座ってもらい、利用者様が思い思いに過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗や箸等、普段から家で使用していた物を持って来て、使用している利用者様もいます。必要と思われる物はご家族様に連絡し、自宅で使っていた物を持って来てもらうようお願いし、利用者様が居心地よく過ごせるように工夫しています。	居室にはタンス等が備え付けられている他、働きかけにより、電化製品や箸等の馴染みの物が持ち込まれている。また、職員と一緒に制作した作品を居室内に飾り付ける等、利用者の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール全体に手すりが設置され、手すりの拭き掃除を兼ねて歩行訓練も行っています。テレビボードの裏には手作りカレンダーを貼り、毎日、利用者様と一緒に、今日は何日か確認するようにしながら、心身共に安全に、また、豊かに自立して生活できるように支援していきたいと思っています。		